

令和4年度 第2回「京都市地域コミュニティ活性化推進審議会」摘録

日時	令和5年1月27日（金）午後6時～午後7時30分
場所	京都市役所分庁舎地下1階 区長会室
出席委員	11名（志藤会長、前田副会長、石本委員、宇野委員、城戸委員、黒田委員、杉原委員（オンライン）、長谷川委員、村上委員、山口委員、山本委員）
欠席委員	沖委員、尾崎委員、玉村委員、森本委員
傍聴者	なし
事務局	地域自治推進室：平賀、廣瀬、松浦、永田、中野 総合企画局総合政策室市民協働推進担当：荒木
議事次第	1 開会 2 議題「一人一人の多様性を踏まえた誰もが参加しやすい地域づくり（基本指針1）」 （1）事務局からの説明 （2）前田副会長からの発表 （3）宇野委員からの発表 （4）山口委員からの発表 （5）質疑応答等 3 閉会
会議資料	資料1 委員名簿 資料2 座席表 資料3 一人一人の多様性を踏まえた誰もが参加しやすい地域づくり【事務局発表】 資料4 京都の地蔵盆と地域コミュニティの「活性化」【前田副会長発表】 資料5 NPO 法人 HAPPINESS 【宇野委員発表】 資料6 乾隆学区の取り組みについて【山口委員発表】 参考1 安心・安全で住みやすいまちづくりって？

【議事内容】 議題「一人一人の多様性を踏まえた誰もが参加しやすい地域づくり」

(1) 事務局からの説明

<事務局>

資料3 「一人一人の多様性を踏まえた誰もが参加しやすい地域づくり」に沿って説明。

(2) 前田副会長からの発表

<前田副会長>

資料4 「京都の地蔵盆と地域コミュニティの「活性化」」に沿って発表

### (3) 宇野委員からの発表

#### <宇野委員>

資料5 「NPO 法人 HAPPINESS」に沿って発表

### (4) 山口委員からの発表

#### <山口委員>

資料6 「乾隆学区の取り組みについて」に沿って発表

### (5) 質疑応答等

#### <志藤会長>

今回は「一人一人の多様性を踏まえた誰もが参加しやすい地域づくり」を議題とし、3名の委員に発表いただいたが、宇野委員、山口委員の発表からは共通して、活動への参加は「出入り自由」という点が大原則であり、要するに、重たさを感じず、軽やかさがないと、今の社会状況の中では、皆一緒に進めていくことは難しく、また、それが大事だと改めて認識できた。

テーマは「子ども・子育て世代」に焦点を置き、3名の委員から発表してもらったが、発表からは「子育て世代」だけでない多様な年代との交流についても知ることができ、今回の「多様性」という議題にも即していたように思う。3名の委員の発表を聞き、何か御意見などはあるか。発表者3名の委員が、他の2人の発表を聞いて、どのように思ったかが気になる。山口委員はいかがか。

#### <山口委員>

自分は地蔵盆をやるのが当たり前だという感覚で、現在町内に小学生以下10名ほどしかいなくても、大人が盛り上げていこうと今でも続いている。十数年前に一度、町内に子どもが一人になってしまった時期もあったが、それでも自分の親世代が辞めずに続けてくれたので、今も自分の子どもが関わっている。やり続けることは、しんどいことかもしれないが、絶対将来につながるし、必要なことだと思う。自分たちも辞めずに続けていきたいと思った。

#### <志藤会長>

宇野委員の発表でもあったが、交流する「場」というのは、続けていくことで、地域の人からの信頼も生まれ、見守ってくれるように思う。「場」を続けていくことが大事。前田副会長いかがか。

<前田副会長>

しんどい時でも続けていく事で、また盛り上がりを見せたりすることもある。また、続けていくにも建前が大事で、地蔵盆の場合は、そこにお地蔵さんがあるから「続けていかなくてはいけない」という認識もあるが、一度辞めてしまうと、復活して再開することはしんどいように思うので、できれば、しんどくても続けていってほしい行事である。

<志藤会長>

前田副会長は地蔵盆の調査をされているが、コロナ禍で一度辞めてしまった地域は、コロナ禍が明けても、中止のままなのか、再開したところもあるのか、そのあたりの話は何か聞いたことはあるか。

<前田副会長>

地蔵盆の調査では、地域側は「中止」と認識していても、実際はお経だけ上げていたり、部分的に工夫して実施されている地域もあった。部分的でも続けることが難しく、一旦辞めてしまった地域もあるが、きちんと町内で話し合い決められたことなので、その決断は尊重すべきところ。単に自然消滅したのではなく、きちんと町内で話し合いの場が設けられているので、そこで地域での関わりは発生しているが、中止が続くと、そのような地域では再開されるのかは気になるところではある。

<志藤会長>

再開に向けて地域を応援したいところだが、子どものためだけでなく、別の形で交流の「場」として大切だと、再認識されていくのかもしれない。

<前田副会長>

宇野委員の活動も、山口委員の活動も、交流する「場」の運営をされていると思うが、「場」というのは続けていかないと忘れられたり、離れてしまうものなので、辞めている期間が続かないように、何らかの形で続けていくことが大事で、それは地蔵盆も共通すると感じた。

<志藤会長>

宇野委員は何か御意見はあるか。

<宇野委員>

いつから、よその子を素直に可愛がれなくなってしまったんだろうと思った。よその子に声をかけるにも気を遣うようになった。そんな今だからこそ、子ども達が楽しそうにしているところに「大人でも、誰でも参加していいよ」と声をかけると、自然に大人も寄ってく

るのではないかと感じた。その中でも、ただ来るだけでなく、それぞれが過度な負担にならず、出来る範囲で役割分担するような仕掛けになっていれば、山口委員の発表でもあったように、人手が足りないことはないのではないか、と感じた。

#### <志藤会長>

今までの既存の行事だけではなく、+αで今の状況に合った形でアイデアを募ってカスタマイズしていく方法は今風で時代に合っているように思う。

3名の委員の発表を聞き、共通していると感じたのは、どの活動も「手作り感」がすごくあり、自分たちのまち、自分たちの場所を、自分たちの等身大で作っていく、自分たちの目線を変えて、カスタマイズしていくところが今風だと感じた。オンラインで参加の杉原委員は何か御意見はあるか。

#### <杉原委員> (オンライン)

前田委員の発表の中で、地蔵盆を町内単位ではなく、学区ごとに実施している地域もあるとあったが、古くから町内で区切って実施されてきたところから反対意見はなかったのか。個人的にはエリアで区切って実施するのは賛成だが、一方で町内の関係も希薄になってしまうような気もするので、反発があった場合、どのように理解を求めたのか気になった。

#### <前田副会長>

学区で実施することに町内から反対意見が出た、という話は聞いたことはない。(京都の場合だと)学区と町内は補完し合う関係だと思うので、町内でできない場合に学区で実施することは、筋が通っているように思う。ただ、本来、地蔵盆は基本的に町内で実施するもので、学区で行われる場合は、どこかイベント的に捉えられるが、参加へのハードルを下げ、そもそも学区って？町内って？という人にも、町内での活動を知ってもらい、参加してもらうきっかけとなれば、と思う。

#### <志藤会長>

今回の3名の発表を聞き、「参加条件のハードルをどこまで低くするか」ということも1つのポイントだと感じた。これまで作られてきた「場」を途絶えさせないように、京都の伝統的なところも含めて伝えていきながら、バージョンアップしつつ、「場」を継続させていくことが大切だと再認識した。

また、誰もが居やすく、来やすく、出入り自由な、誰もが参加しやすい「場」を目指すためには、「手作り感」が重要で、自分たちが手作りでやってくることが、これから求められてきているのだと感じた。山本委員はいかがか。

#### <山本委員>

どこの地域も苦勞されながらも、活動が続けられていることが分かった。地藏盆は京都の伝統的な行事で、ほとんどの町内で開催されていたが、コロナ禍の影響で縮小されながらも、何か工夫して続けていたところが多かったように思う。

子ども食堂は、なかなか定着しない地域もあるが、このような活動を広めていく事で、子どもや保護者と地域のつながりが生まれるきっかけとなるのではないかと思う。

最後に山口委員の発表にあったが、組織に入らなくても活動の手伝いしたいと言ってくれているような方を、うまく拾い集め、組織に入らずとも好きな時に手伝えるような環境を整えていけば、人手も集まり活動もしやすくなっていくのではないかと感じた。

#### <志藤会長>

時間の関係上、すべての委員に発言いただけなかったが、今回の発表を聞き、疑問点やもう少し深めたい点などがあれば事務局へ御意見を寄せていただければと思う。今後も議題に沿って、実際の事例を踏まえながら、地域コミュニティの中で、これから市民同士の関係性をどのように深め、広めていけるのか議論していきたいと考えているので、宜しく願いしたい。それでは、事務局に進行をお返りする。

#### <事務局>

本日は熱心な御議論いただき、御礼申し上げます。時間の制約もある中で、全員に発言いただけなかった点は大変心苦しいところではあるが、事務局に御意見を寄せていただければと思う。

次回、第2回の審議会は本年夏頃、基本指針2「多様な地域の特性に即した地域活動の推進」を議題に、委員の方から話題提供をお願いしたいと考えている。